

令和5年度 抵抗加熱技術部会見学会「宇宙航空研究開発機構（JAXA）相模原キャンパス」見学記

- 1.日 時：令和5年8月24日（木） 10:30～12:00
- 2.見学場所：宇宙航空研究開発機構（JAXA）相模原キャンパス「宇宙科学探査交流棟」
- 3.説明者：JAXA説明員
- 4.出席者：8名（事務局2名含む）
- 5.概要：

新型コロナウイルス関連の制限解除に伴い、今年度より各技術部会で「技術交流・見学会」を再開。抵抗加熱技術部会は前日（23日）にJEHC会議室で部会を開催し、翌24日に宇宙航空研究開発機構（JAXA）相模原キャンパスの見学会を実施した。当初予定していた25日がX線分光撮像衛星（XRISM）及び小型月着陸実証機（SLIM）打上げの関係で休館日となったことから1日繰り上げての実施となったが、2019年10月以来となった今回の見学会には6名の委員が参加した。

最寄りのJR淵野辺駅から路線バスで見学先施設に到着すると、最初に目に留まったのが屋外に展示されている「M-V（ムーファイブ）ロケット」。同ロケットは8号機までであったが、打上げ中止となった2号機を上段だけ模型に交換した実物が展示されていた。屋内に入り、受付を済ませると「展示解説ツアー」開始まで30分程時間があることから、展示場内を自由見学。学校が夏休み中だったこともあり、平日にもかかわらず館内は多くの親子連れで賑わっていた。

その後開始時刻となり、いよいよ「展示解説ツアー」がスタート。かなりのベテランと思われる説明員により、10個の展示ゾーンひとつひとつを丁寧に説明いただく。最初の展示ゾーン「宇宙科学のあゆみ」では、1955年に糸川英夫教授が開発した「ペンシルロケット」水平発射実験の実験機を前に日本のロケット開発の歴史に耳を傾けた。また、館内中央には「小型月着陸実証機（SLIM）」、右奥には「X線分光撮像衛星（XRISM）」の展示があったが、案内板には「2023.08.26（SAT）LIFT OFF」の文字があり、たいへん注目度が高いタイミングでの見学となった。（その後打上げ延期となり、最終的には9月7日に種子島宇宙センターから打上げ成功）



写真1 屋外展示の M-V ロケット



写真2 X線分光撮像衛星（XRISM）



写真3 小型月着陸実証機 SLIM

引き続き、別棟となる「宇宙探査実験棟」見学ツアーに参加。月や惑星の表面に地形、照明環境を模した「宇宙探査フィールド」は探査ロボットなどの研究開発をしている場所で、見学用通路からガラス越しに見たフィールドは砂漠のようなイメージ。高度な温湿度管理、照度管理等により、天候の影響を受けずに毎回同一条件の下で実証ができるとのことであった。

最後に「小惑星探査機はやぶさ2」の前で集合写真を撮影し、見学会を終了。JAXAからほど近い「相模原市立博物館」には常設のプラネタリウムや人工衛星「はやぶさ」「れいめい」などの展示もあることから、解散後も多くの参加者が博物館を見学して帰路についた。各展示からは日常とかけ離れた宇宙開発の一端を感じ取ることができ、たいへん貴重なものとなった。

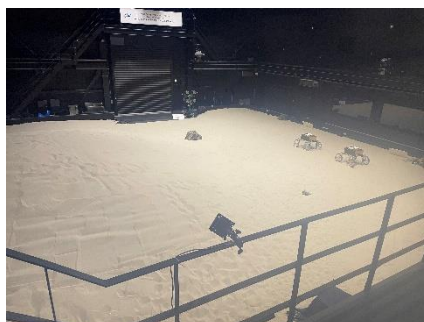


写真4 宇宙探査フィールド



写真5 はやぶさ2を背景に集合写真